

第6学年 社会科学習指導案

場所 6年1組教室

授業者 平井 由子

1 単元名 「世界に歩み出した日本」

2 単元について

(1) 我が国の歴史上の主な事象について、人物の働きや代表的な文化遺産を中心に遺跡や文化財、資料などを活用して調べ、歴史を学ぶ意味を考えるようにするとともに、自分たちの生活の歴史的背景、我が国の歴史や先人の働きについて理解と関心を深めるようにする。

ク 大日本帝国憲法の発布、日清・日露の戦争、条約改正、科学の発展などについて調べ、我が国の国力が充実し国際的地位が向上したことが分かること。

本単元では、日清・日露戦争、条約改正、科学の発展やそれらに関わる人物の働きを理解し、我が国の国力が充実し、国際的地位が向上したことや、それによって人々の生活や社会が変化したことが分かることとともに、それらに関わる人物の願いや働きを考えることが大切である。そのために、「日本の立場は、世界の中でどのように変わっていったのだろう。また、国民生活には、どのような変化が起こったのだろう。」という単元を貫く課題で学習を進めていく。

日本では、政府の殖産興業政策によって大きな工場がつくられ、工業が盛んになった。さらなる発展には不平等条約の改正が必要であったが、ノルマントン号事件をきっかけに、不平等条約への日本人の怒りが高まっていった。そこで、日清・日露戦争の勝利により国際的にも地位を上昇させた日本は、陸奥宗光や小村寿太郎などの働きにより不平等条約の改正を成功させ、産業や科学の発展も伴い、欧米諸国との対等な関係を築くことができた。しかしながら、産業が発展し都市化が進む中で、様々な社会問題が起き、また重工業の急速な発展により公害問題も起きた。人々は自分たちの生活を守るために団結し、自分たちの権利を守るために世の中に訴えるようになった。

本時では、日本の産業の発展によって社会問題が起き、人々がその問題に立ち向かっていったことを考えられるようにしたい。

3 研究にかかわる本時の意図

研究内容1 教材化の在り方と単元構成の工夫

①社会認識を深める教材化の在り方

田中正造は、日本で初めて公害問題を訴えた人物である。国会議員となり足尾銅山の被害や停止を10年に渡って何度も訴え、さらに辞職し天皇に直訴してまで、この問題に生涯取り組んだ。苦しむ人々のために、自分の命も私財も投げ打って全力を尽くして闘う田中正造の生き方を、子どもたちに学ばせたい。また、当時の日本の、産業発展を優先させ足尾銅山を停止しなかったことに関して学ぶことは、これからの日本の工業や環境の在り方を考える上でよい機会となる教材である。

研究内容2 学習活動の工夫

①強い課題意識をもたせるための資料提示の工夫

足尾銅山から採れる銅は日本一の産出量でありたくさんの人々がそこで働き生活していることを知るところが、議員である田中正造が、足尾銅山の停止を訴え天皇に直訴したことを知る。なぜ命をかけた訴えをする必要があったのかで課題化し、児童が探ってみたいという意欲につなげるようにする。

②社会認識を深めるための交流の工夫



資料1「足尾銅山周辺の被害」から、足尾銅山周辺の作物が実らず、煙害のために人々が暮らせなくなり、たくさんの方が亡くなったことを読み取り、被害の広がりについて考える。

資料2「田中正造の年表」から、正造が国会議員となってから何度も被害を訴えたり天皇に命をかけて直訴したりしたことを知る。そして、「人々の苦しみに気付いてほしい、なんとかして足尾銅山を停止しなければ。」という田中正造の気持ちを考える。

2つの資料をつなげて考えることから、足尾の環境が破壊され、人々が苦しんでいる様子をより深く考えられるようにする。銅の産出量が当時日本一だった足尾銅山であるが、それを止めてでも人々の生活や環境を守りたいという田中正造の強い願いに、深めの発問や課題に立ち返ることを通して気付くことができるようにする。

年	年齢	できごと
1841	1	下野国(現在の栃木県佐野市)の農家に生まれる。
1890	50	第1回衆議院議員選挙に当選し、国会議員となる。
1891	51	第2回衆議院議員選挙に初めて「足尾銅山の真実(書)」を出す。
1896	56	足尾銅山停止運動を開始する。騒音でくりかえし足尾銅山の被害をうたえ続ける。
1901	61	国会議員をやめて、足尾銅山の停止を天皇に直訴する。
1904	64	反対運動の中心地であり被害の大きい谷中村を助にする計画を止めるため、この村に住む。反対運動を続ける。
1906	66	谷中村が廃村になるが、住み続ける。
1913	73	病気で亡くなる。

2つの資料をつなげて考えることから、足尾の環境が破壊され、人々が苦しんでいる様子をより深く考えられるようにする。銅の産出量が当時日本一だった足尾銅山であるが、それを止めてでも人々の生活や環境を守りたいという田中正造の強い願いに、深めの発問や課題に立ち返ることを通して気付くことができるようにする。

③単位時間の終末の工夫

田中正造は志半ばで亡くなったものの、世の中の人々が公害問題について広く知ったことと、現在でも足尾の環境を守る活動が続いていることを知る。人々の意識がこの事件をきっかけに変わっていったことを理解できるようにする。

研究内容3 評価と指導・援助

①一人一人の学習状況に応じた指導・援助の明確化

ノート指導の時に、キーワードにつながるような語句に朱線を入れるようにする。自分の考えを表現することが苦手な児童には、机間指導の中で声をかけ、「足尾銅山をこのまま続けるとどんな悪いことがあるのか。」と視点を与えたい。また、事実を断片的にとらえている児童には、課題を再確認し、課題と見つけた事実をつなげて書けるように助言をする。

③身に付けさせたい力の定着を図る見届けの工夫

課題の言葉につなげ、キーワード「環境の破壊」「人々の苦しみ」「人々の生活や環境を守りたい」を用いてまとめられるようにする。

4 本時のねらい

足尾銅山周辺の被害や鉱山周辺の出生死亡表などの資料を読み取る活動を通して、田中正造が足尾銅山の鉱毒被害による社会問題を訴えたのは人々の生活や環境を守るためであり、日本の国際的な発展の一方で多くの人々の努力や犠牲があったことについて考え、表現することができる。

5 本時の展開 (6時/全8時間)

	学 習 活 動	指導・援助 (*資料)
課題をつかむ	<p>1 日本で一番銅を産出している足尾銅山について、田中正造が天皇に直訴して操業停止を訴えたことを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 命をかけて天皇に訴えるなんて、どうしてだろう。 日本一銅がとれる足尾銅山なのに、なぜ停止させたかったのか。 <p>2 本時の課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>銅を日本一産出しているのに、田中正造はなぜ足尾銅山の停止をうったえたのだろう。</p> </div> <p>3 予想を交流し、課題解決の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 工場から流れる排水によって、環境が汚染されたのではないか。 国会議員として、みんなのために訴えたのではないか。 <p>4 資料を使って調べ、考える。</p> <p>5 課題について考えたことを、仲間と交流する。</p>	<p><前時までの児童の意識> 明治政府の殖産興業政策によって、日本の工業は欧米諸国と並ぶほど発展した。</p> <p>*殖産興業について *足尾銅山について *天皇に直訴する田中正造</p> <ul style="list-style-type: none"> 明治時代の殖産興業に関する内容について側面に掲示し、振り返ることができるようにしておく。 明治時代の天皇の存在について確認し、天皇に直訴することが命がけだったことを確認する。 資料を提示する時に、難しい言葉を全体で確認するようにする。 資料のどこから考えたのか明らかにして読み取るように机間指導をする。 田中正造が一人で足尾銅山の停止を訴えているわけではなく、民衆と協力して訴えていることを確認し、問題に対して民衆が力を合わせて闘うようになったことを確認する。 日本の発展には銅の産出も必要であることを問い返し、国よりも人々の生活や環境を大切にしたい田中正造の生き方について、資料を通して児童が考えられるようにする。
調べる	<p>資料①足尾銅山周辺の被害</p> <ul style="list-style-type: none"> 足尾銅山から出る鉱毒の被害で麦畑が枯れ、渡良瀬川の魚が大量に死んでいる。 煙害で樹木が枯れてしまう。→作物も魚もとれないため、生活していけない。水が汚染されているため、危険である。→環境が破壊されてしまい、もう村では暮らせない。 鉱毒で多くの人が亡くなった。→これ以上被害を広げたくない。 <p>資料②銅山周辺の出生死亡表</p> <ul style="list-style-type: none"> 死亡者が年々増えている。→鉱毒の被害を受けているのではないか。 生まれてすぐ、または2才までに死んでしまう数が増えている。→鉱毒の被害が子どもにまで出ている。 関連死が1064人いる。→人体に害が出て、たくさんの方が苦しんでいる。→足尾の人々が安心して暮らせるようにしたい。 	
	<p style="text-align: center;">環境の破壊 人々の苦しみ</p> <p style="text-align: center;">↓ ↓</p> <p style="text-align: center;">人々の生活や環境を守りたい</p>	
深める	<p>6 田中正造の直訴状から、思いを考える。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>…どうか政府に命じて、①水源をきれいにし ②川をもとのようになおし ③毒土を除き ④沿岸の産業を行き返らせ ⑤おとろえた町村を回復させ ⑥鉱業を中止し、毒を止めるのに力をつくさしてください。もし、このままにしておきますと、考えつかないような不幸が起きるかもしれません。どうか、この命がけの申し出をお聞き入れてくださいますようお願いいたします。</p> </div>	
まとめる	<p>7 学習のまとめをする。</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>田中正造が足尾銅山の停止を訴えたのは、足尾銅山の銅を産出することよりも、<u>環境の破壊</u>や<u>人々の苦しみ</u>を取り除き、その地域に暮らす<u>人々の生活や環境を守りたい</u>と考えたからだ。日本は殖産興業によって急速に発展したけれど問題もあり、人々が立ち向かうようになったことが分かった。</p> </div>	
生かす	<p>8 生かす。</p> <p>田中正造は志半ばで亡くなったが、直訴によって広く国民が足尾銅山による環境被害を知ることになったことや、現在でも植林が行われていることなどを知る。</p>	<p>◆評価規準 田中正造が足尾銅山の鉱毒被害による社会問題を訴えたのは、人々の生活や環境を守りたいためだと考え、表現している。(思考・判断・表現) <ノート・発言></p> <ul style="list-style-type: none"> 世の中の人々の環境に対する意識が高まったことを紹介する。 <p><出口の児童の意識> 日本は欧米諸国と並ぶほど発展したけれど環境問題が起き、人々が問題を訴えるようになった。</p>

6 単元構成表「世界に歩み出した日本」

	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・資料活用 of 技能	知識・理解
単元の目標	日清・日露戦争, 条約改正, 科学の発展やそれらに関わる人物の働きについて関心を持ち, 進んで調べることができる。	年表や絵, 文章などの資料を効果的に活用し, 日清・日露戦争, 条約改正, 科学の発展やそれらに関わる人物の働きなどについて考えノートに記述している。	日清・日露戦争, 条約改正, 科学の発展やそれらに関わる人物の働きなどについて資料を活用して調べたり, 人物の業績や考え方についてまとめたりすることができる。	日清・日露戦争, 条約改正, 科学の発展やそれらに関わる人物の働きを理解する。また, 我が国の国力が充実し, 国際的地位が向上し, それによって人々の生活や社会が変化したことを理解する。
評価規準	<ul style="list-style-type: none"> 日本の産業の発展や外国との関わりに関心を持ち, 進んで調べようとしている。① 日本の国力の充実や国際的地位の向上, それらにともなう社会の変化を人物の働きや思いと関連づけ, 進んで調べようとしている。⑧ 	<ul style="list-style-type: none"> 陸奥宗光が条約改正に成功したわけを外国との関わり・日本の近代化・条約改正のための努力などからとらえ, それらに関連させて考えている。③ 田中正造が足尾銅山の鉱毒被害による社会問題を訴えたのは, 人々の生活や環境を守りたいためだと考え, 表現している。⑥ 	<ul style="list-style-type: none"> 不平等条約が日本にもたらしていた不利益を資料や本文から読み取っている。② 二つの戦争に勝利したことが日本の世界における地位向上につながったことを資料や本文から読み取っている。④ 	<ul style="list-style-type: none"> 日本が朝鮮を植民地にし, 朝鮮の人々を傷つけたこと, 小村寿太郎が条約改正を果たし, 欧米諸国と対等な地位を築いたことを理解している。⑤ 産業の発展が様々な面で人々の生活に変化をもたらしたことを理解している。⑦

<単元前の児童の意識>

黒船の来航, 明治維新, 文明開化と時代が大きく変化した。また, 明治政府が廃藩置県や四民平等, 大日本帝国憲法の発布などの諸改革を行ったことを通して, 日本は欧米の文化を取り入れつつ, 近代化を進めてきた。

考えさせたい内容	調べさせたい事実	押さえてたい用語・語句
<p>日本は, 殖産興業政策を行ったり欧米諸国に追いつこうしたりしたが, 不平等条約によって大きな不利益をもたらされていた。</p>	<p>政府の殖産興業政策によって大きな工場が作られ, 工業が盛んになり, 欧米諸国に追いつこうとしている。①</p>	<p>鹿鳴館 紡績工場 官営八幡製鉄所</p>
<p>日清戦争や日露戦争に勝利したこと, 条約改正に成功して欧米諸国と対等になったこと, 医学などの分野で活躍したことが, 日本の国際的地位を向上させた。</p>	<p>ノルマントン号事件では, 多くの日本人が死亡したにもかかわらず, 船長はわずかな罪にしか問われなかった。これをきっかけに, 日本では条約改正への要求が高まった。②</p>	<p>ノルマントン号事件, 領事裁判権, 関税自主権</p>
<p>産業の発展によって, 日本の中で様々な社会問題が起き, 人々の民主主義への意識が高まった。</p>	<p>日本の発展には, 欧米諸国と結んだ不平等条約の改正が必要であった。陸奥宗光は, 粘り強い交渉を行い, 日本が近代化したこと・当時のアジア情勢も役割を果たし, 領事裁判権の撤廃に成功した。③</p>	<p>陸奥宗光, 領事裁判権, 条約改正</p>
<p>二つの戦争, 条約改正や産業・科学の発展により, 我が国の国力が充実し, 国際的地位が向上した。また, 産業の発展は人々の生活や社会に変化をもたらした。</p>	<p>日本と清(中国)は朝鮮をめぐる対立し, 日清戦争となった。日本は勝利して賠償金を得, 台湾などを植民地とした。日本とロシアは満州と朝鮮の支配をめぐる対立し, 日露戦争となった。勝利した日本は樺太南部と満州の鉄道を獲得し, 韓国の支配をロシアに認めさせた。④</p>	<p>日清戦争, 日露戦争, 東郷平八郎, 与謝野晶子, 賠償金, 植民地, 満州</p>
	<p>日本は朝鮮への支配を強めたが, 朝鮮の人々は独立運動を続けた。小村寿太郎が不平等条約の改正に成功して関税自主権を回復させ, 欧米諸国と対等な関係を築いた。医学や物理学などで世界に認められる学者が現れ, 日本の国際的地位の向上に貢献した。⑤</p>	<p>韓国併合, 独立運動, 小村寿太郎, 関税自主権の回復, 国際的地位の向上, 野口英世</p>
	<p>産業が発展し, 都市化が進む一方で, 足尾銅山の問題など様々な社会問題が起きた。人々の民主主義への意識が高まり, 普通選挙や女性の地位向上, 差別撤廃を目指す運動が起こった。⑥⑦</p>	<p>足尾銅山, 田中正造, 民主主義, 普通選挙, 女性の地位向上, 平塚らいてう, 全国水平社</p>
	<p>不平等条約に苦しんでいた日本は, 産業が発展して国力が充実し, 国際的地位が向上したことによって条約改正にも成功し, 外国と対等にわたりあうようになった。また, 国内では産業の発展による問題が発生したことで, 人々に民主主義の意識が高まった。⑧</p>	<p>陸奥宗光, 東郷平八郎, 与謝野晶子, 小村寿太郎, 野口英世, 平塚らいてう</p>

<単元後の児童の意識>

二つの戦争の勝利や産業・科学の発展、そしてたゆまぬ外交努力などにより、江戸時代から苦しめられてきた不平等条約が改正され、日本は欧米諸国と対等な関係を築くことができたが、それにもなって様々な社会問題も起きた。